

進路を切り拓くために

校長 筒井 啓介

保護者の皆様におかれましては、お子様の進路選択に関して、分からない点や不安に思う点もあることと思います。進路についての問題は担任を窓口とし、生徒・保護者の皆様が互いの思いを出し合って、丁寧に話し合いながら「お子様の希望する進路の実現に向けた取り組みを進める必要がある」と考えています。時には厳しいことを言わなければならない場合もあるでしょう。しかし、厳しいことを言って終わりではなく、これからどのようにしていくのかを共に考えて行く、その姿勢を大切にしたいと思っています。下記に、進路実現に向けてお伝えしたいことを挙げていますので参考にしてください。

【大切にしたいこと】

- ①お子様を否定するのではなく、まずは進路に対するお子様の考えを受け止めてください。
どうすればその進路が実現できるのかをお子様とともに考えてください。
- ②誉めて伸ばす教育が大切だと思います。否定してばかりでは、お子様の自尊感情やモチベーションアップには繋がりません。良い点や頑張りを見つけてお子様を励ましてください。
- ③各教科の基礎基本を確実に身に付けるために、必ず家庭学習の習慣を身に付けさせてください。
- ④できなかったことができるようになる。分からなかったことが分かるようになる。この積み重ねこそが勉強です。朝学習のプリント、定期考査で間違えた問題など、放置せずに必ず解けるようにしてください。
- ⑤中学校卒業後の進路は、全日制高等学校進学だけではなく、専修学校や通信制の高等学校など多様な学びの形態があることを知ってください。
- ⑥受験を希望する学校については、オープンスクールや説明会に参加し、必ずお子様の目で確認をしてください。部活動に力を入れる学校、大学進学に力を入れる学校など学校ごとに特色があります。入学してみて、自分に合わない、こんなはずではなかった……のようなことで、1年生の夏休み明けに退学する生徒が多いことは事実です。
- ⑦特色選抜や推薦入試で受検を考えている場合、論文や実技検査が課されます。論文については、文章作成力が必要ですが、文章を書くためには様々な知識が必要です。単なる暗記では対応ができません。与えられたテーマについて自分なりの考えを述べる力が必要です。

そのためにも、批判的思考（critical thinking）力が必要になります。「物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、論理的・客観的に理解する力」を養うことが大切です。

批判的思考力を養うために（例）

⇒日頃から新聞やテレビのニュースに目を向ける。新聞記事を切り抜き、ノートに貼り付け、読んで感じたことや自分なりの考えを書く。読者の欄やコラムなど身近な内容から取り組むと良いでしょう。

【過去の問題例】

●A高校

- ①実習や研究で興味があるもの。[160～200 字]
- ②卒業後の進路について。[160～200 字]
- ③日本の農業の食糧自給率を上げる方法と輸出率を上げるアイデア。[300～400 字]

●B高校

- ①身近なヒット商品について。[80～100 字]
- ②商品開発の必要性和、就きたい職業につくために学びたいこと。[400 字]

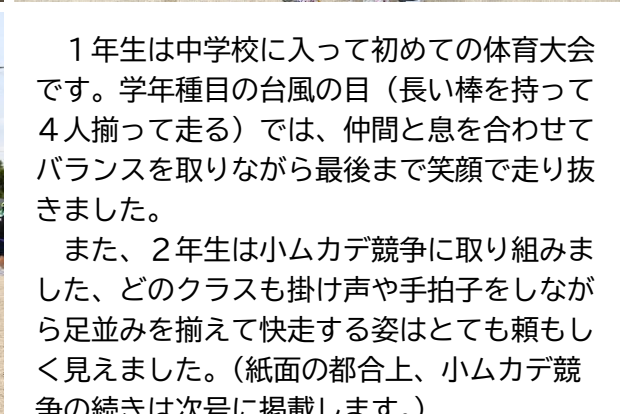
●C高校

- ①『ぐりとぐら』の一文から、自分だったらどのような行動をとるか。[共通/200～300 字]
- ②谷川俊太郎の『色』より、どんな情景を想像したか。また、それを作品にするならどんなものか。[デザイン科選択/300 字]

■体育大会を開催しました（その2）



競技の進行と実況アナウンスは生徒会で行います



台風の目（1年学年種目）

小ムカデ競争（2年学年種目）

1年生は中学校に入って初めての体育大会です。学年種目の台風の目（長い棒を持って4人揃って走る）では、仲間と息を合わせてバランスを取りながら最後まで笑顔で走り抜きました。

また、2年生は小ムカデ競争に取り組みました、どのクラスも掛け声や手拍子をしながら足並みを揃えて快走する姿はとても頼もしく見えました。（紙面の都合上、小ムカデ競争の続きは次号に掲載します。）